

イネカメムシの発生予察注意報の発表について (対象地域の拡大)

- ・イネに大きな被害を与えるイネカメムシについて、7 月 18 日に邑楽館林地域（主に早期、早植栽培地帯）に対し発生予察注意報を発表しましたが、県中部、西部、東部地域の普通期栽培地帯においても昨年に比べて飛来が早く、飛来域が広がっていることが確認されています。
- ・気象予報によると、今後、イネカメムシが増加しやすい高温傾向が見込まれています。
- ・そのため、県中部、西部、東部地域に対して、イネカメムシの発生予察注意報を発表します。

1 発表の内容

- (1) 作物名：イネ
- (2) 病害虫名：イネカメムシ（参考資料 写真 2）
- (3) 対象地域：県中部、西部、東部地域
- (4) 発生量：多い
- (5) 注意報発表の根拠
 - ・7 月下旬の定期定点すくい取り調査におけるイネカメムシの捕獲状況は、前年同時期には捕獲されなかった県中部地域、西部地域で捕獲があった。
 - ・前橋市では、前年より早い時期に複数地点でイネカメムシが確認された。
 - ・安中市では、前年まではイネカメムシが確認されなかったが、本年は確認された。
 - ・富岡市の予察灯では、本年の初誘殺が、前年より 1 ヶ月半早かった。
 - ・太田市の 7 月下旬（早期水稻の出穂期）のすくい取り調査の捕獲数は、昨年の約 1.4 倍。
 - ・関東甲信越地方の気象予報では、今後イネカメムシが増加しやすい高温傾向となる見込み。
- (6) 防除対策
 - ・農薬による防除を 2 回行います。
 - 1 回目：出穂期（不稔による減収防止）
 - 2 回目：出穂期の 8 日後頃（斑点米の発生防止）

2 イネカメムシとは

- ・イネカメムシは、他の斑点米カメムシ類に比べ、大型でイネへの嗜好性が強く、出穂直後の早い時期からイネを加害し、大きな被害を与える害虫です。
- ・イネカメムシによる被害は大きく分けて 2 つあります。
 - ① 不稔（実らない）粳が発生することによる減収。
 - ② 斑点米（参考資料 写真 1）が発生することによる等級落ち、斑点米除去による減収。
- ・群馬県では、令和 5 年度に邑楽館林地域でイネカメムシを確認しました。

3 その他

- ・令和 7 年 4 月 1 日～7 月 31 日までに 20 府県（群馬県を含む）で 28 報の注意報、15 府県（群馬県を含む）で 16 報のその他の情報等が発表されています。
- ・県では、令和 7 年 7 月 18 日にイネカメムシに関する発生予察注意報（邑楽館林地域）を発表しました。

令和7年度 発生予察注意報 第2号

★県中部、西部、東部地域でイネカメムシが多く、飛来時期が早まっています。

★普通期栽培地帯においてもイネカメムシが確認されており、注意が必要です。

1 注意報の内容

- (1) 作物名：イネ
- (2) 病虫害名：イネカメムシ
- (3) 対象地域：県中部、西部、東部地域
- (4) 発生量：多い

2 注意報発表の根拠

- (1) 7月下旬の定期定点すくい取り調査（以下「すくい取り調査」）におけるイネカメムシの捕獲状況は、前年同時期には捕獲されなかった県中部地域（前橋市）や西部地域（高崎市、藤岡市、富岡市）で捕獲がありました（図2）。
- (2) 前橋市では、前年は7月下旬までの期間において予察灯で1頭のみを確認でしたが、本年は、すくい取り調査地点を含めて既に複数地点でイネカメムシを確認しました。
- (3) 安中市では、前年はイネカメムシの飛来が確認されませんでしたでしたが、本年は飛来が確認されています。
- (4) 富岡市では、予察灯への初誘殺が前年より1か月半、早くなりました（図3）。
- (5) 太田市の7月下旬（早期水稻の出穂期）におけるすくい取り調査の捕獲数は137頭で、昨年の約1.4倍でした（図2）。
- (6) 関東甲信越地方の向こう1か月の気象予報（7月31日気象庁発表）および、向こう3か月の気象予報（7月22日気象庁発表）ともに、今後、イネカメムシが増加しやすい高温傾向となる見込みです。

3 防除対策

- (1) 薬剤防除を「2回」行います。液剤を用いる場合、1回目の防除適期は出穂期（不稔による減収防止）、2回目の防除適期は出穂期から8日後頃（斑点米発生防止）です（図4）。
- (2) 液剤以外（粒剤等）を用いる場合は、液剤の防除適期の概ね3～4日前に散布します。
- (3) なお、出穂前から多数の成虫が侵入している場合には、出穂前にも防除を行ってください。

4 防除上の留意点

- (1) 農薬の散布にあたっては使用基準を遵守し、他の作物等への飛散に十分注意するとともに、周囲の生産者、住民等への事前周知を徹底してください。
- (2) 特にイネカメムシの防除薬剤は、周辺のミツバチに影響を及ぼす可能性があるため、養蜂農家への周知等、必要な被害軽減対策を講じてください。
- (3) 液剤を散布する際は、イネの株元までかかるようにしてください。
- (4) 防除に使用する農薬については、各農業事務所または、各JA、農薬販売店等にお問い合わせください。



図1 イネカメムシ成虫
体長 約 13 mm



図2 7月下旬すくい取り調査結果
(水田内+雑草地の合計、成虫+幼虫の合計)

令和 6、7 年で比較ができ、捕獲があった地点のみ記載。
図中の数字は、水田 20 回振り 4 か所、雑草地 20 回振り
1 か所の合計値を示す。
地点名の下のカッコ内は、田植えの時期を示す。

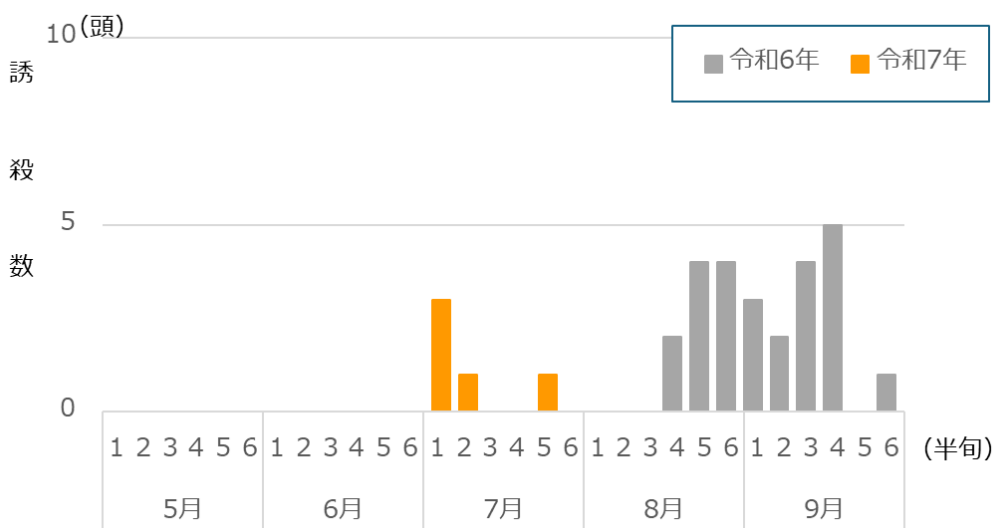


図3 予察灯への誘殺状況 (富岡市)

半旬 (上中下旬の半分の期間) ごとの誘殺数
令和7年は7月5半旬までの調査結果

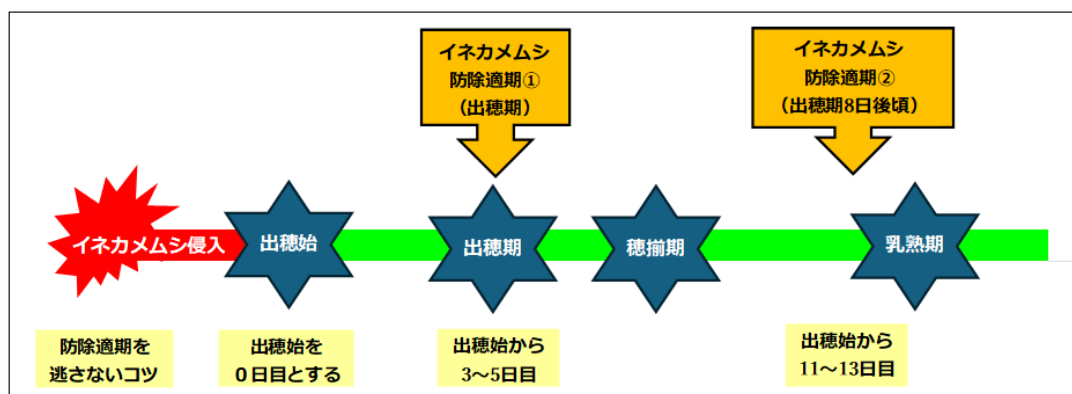


図4 イネカメムシの防除適期

参考資料

1 斑点米カメムシ類について

- ・ 斑点米カメムシ類とは、イネを加害し、籾からデンプンを吸い、玄米を黒くしたり、黒い斑点を生じさせるカメムシです。
- ・ 現在、農業技術センターで調査を行っている斑点米カメムシ類は次の6種です。
イネカメムシ（写真2）、クモヘリカメムシ（写真3）、ホソハリカメムシ（写真4）、アカヒゲホソミドリカスミカメ、アカスジカスミカメ、ミナミアオカメムシ



写真1 イネカメムシ被害による斑点米

- ・ 本文中にも書いてありますが、イネカメムシは次のような特徴から、他の斑点米カメムシ類に比べて、被害が大きくなるとされています。
 - ① 他の斑点米カメムシ類に比べて大型
 - ② イネへの嗜好性が高い
 - ③ 他の斑点米カメムシ類に比べて水田に侵入する時期が早い

主な斑点米カメムシ



写真2 イネカメムシ



写真3 クモヘリカメムシ



写真4 ホソハリカメムシ

2 他県のイネカメムシに関する注意報等の発表状況

- ・ 令和7年4月1日～7月31日までに20府県（群馬県を含む）で28報の注意報、15府県（群馬県を含む）で16報のその他の情報等が発表されています。

（1）注意報

	第1報	第2報	第3報
埼玉	7月3日	7月23日	
愛知	7月3日	7月16日	8月2日
石川	7月3日		
山口	7月7日	8月6日	
栃木	7月8日	7月14日	
千葉	7月9日		
茨城	7月10日	8月1日	
鳥取	7月11日	7月12日	7月22日
三重	7月11日		
島根	7月14日		
滋賀	7月17日		
兵庫	7月17日		
群馬	7月18日		
京都	7月18日		
岐阜	7月18日		
福岡	7月22日		
広島	7月25日		
静岡	7月31日		
大分	8月4日		
佐賀	8月6日		

(2) その他技術情報等

栃木	4月11日	病虫害情報
愛知	6月2日	病虫害情報
栃木	6月26日	植物防疫ニュース
三重	6月27日	技術情報
静岡	7月1日	技術情報
高知	7月11日	技術情報
佐賀	7月14日	対策資料
愛媛	7月15日	技術情報
群馬	7月16日	病虫害情報
大阪	7月17日	防除情報
神奈川	7月30日	病虫害情報
岡山	7月30日	防疫情報
愛知	8月1日	病虫害情報
奈良	8月1日	病虫害情報
島根	8月4日	技術情報

※群馬県が令和7年7月16日に発表した「令和7年度病虫害情報第6号(イネカメムシ)」は、その他技術情報等に該当します。

参考 病虫害発生予察情報の種類

情報の種類	内容
予報	病虫害の発生に関する情報を定期的（月1回）に発表。
警報	重要な病虫害の大発生が予想され、すぐにも防除した方がよい場合に発表。
注意報	警報を発表するほどではないが、重要な病虫害の多発生が予想され、早めに防除した方がよい場合に発表。
特殊報	新しい病虫害が発生した時や、発生のしかたが例年と異なるなど特異的な時に発表。
その他	・「病虫害情報」：病虫害や防除についての解説や情報 ・各種トラップ調査結果 など

3 群馬県におけるイネの田植え時期の区分

- ・ 早 期： ～5 月 20 日まで
- ・ 早 植： 5 月 21 日～6 月 15 日
- ・ 普通期： 6 月 16 日～6 月 30 日

※参考：主要農作物生産振興資料 技術編 令和3年3月 群馬県農政部

4 調査方法

(1) すくい取り調査

- ・ 道 具： 柄の長さが 1.2m、網の直径が 36 c m の捕虫網を使います。
- ・ 捕獲方法： 捕虫網を、自分の体の右横から左横まで弧を描くように 180 度、イネの上部を叩きながら振り、同様に続けて自分の体の左横から右横まで弧を描くように 180 度振ります。
これで 2 回振ったこととなります。
イネカメムシの場合、20 回振りを 1 つの水田で 4 カ所行い、合計 80 回振って捕獲したイネカメムシを数え、データとします。

(2) 予察灯

- ・ 夕方 6 時～翌朝 6 時まで白熱電球を点灯し、集まってくる害虫を捕獲する装置です。
- ・ 捕獲された害虫から、職員がイネカメムシを手で分別し数えます。
- ・ 現在県内 5 地点に設置があり、イネカメムシの調査にも用いています。
※予察灯では約 20 種の害虫の捕獲数を調査しており、イネカメムシはその 1 種です。
※5 地点は、前橋、伊勢崎、富岡、沼田、館林です。



捕虫網

写真5 すくい取り調査

水田内のすくい取りでイネカメムシを捕獲している様子



写真6 予察灯

夕方 6 時～翌朝 6 時まで電球を点灯します。

集まった虫は、この大きな漏斗から機械内部に落ちます。

機械内部に落ちた虫は、機械の中の捕獲箱に集まります。
→捕獲箱には、殺虫剤が染みこんだ板状のプレートを入れてあり、その成分で殺虫します。